

番 号	8	平成26年度公共事業事後評価調査			担当課名〔農地整備課〕				
事業名	かんがい排水事業（排水対策特別型）			事業主体	静岡県				
箇所名	むじながわじょうりゅう 猪川上流			市町名	浜松市東区				
事業概要									
受益面積	65.8ha	採択年度	平成2年度	完了年度	当初 実績	平成20年度 平成20年度			
事業費	前回	1,810百万円（H17計画変更時）	実績	1,862百万円					
事業量	幹線排水路 延長2,880m（水路幅3.80～8.16m、深さ2.0～3.0m）								
事業の目的・必要性									
<p>地区の幹線排水路である猪川は、断面不足や河床が高かったことなどから排水不良が発生し、転換作物の導入に苦慮している。このため、排水改良による水田の乾田化を図り、水田農業活性化の基礎条件を整えるものである。</p>									
事業の効果等									
費用対効果分析結果	前回再評価時（H17）	B/C	1.20	総費用	16.5 億円 （事業費：16.5 億円 再整備費等：0 億円 関連事業費：0 億円）	総便益	19.8 億円 （農業生産向上効果：11.9 億円 農業経営向上効果：3.9 億円 生産基盤保全効果 4 億円）	基準年	平成16年
	事後	B/C	1.02	総費用	22.6 億円 （事業費：19.6 億円 再整備費等：3.0 億円 関連事業費：0.0 億円）	総便益	23.1 億円 （食料安定供給確保効果：23.1 億円）	基準年	平成25年
1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化									
* 土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い総費用、総便益が増加。									
2) 事業効果の発現状況									
事業効果項目		事業効果内容					便益額		
食料の安定供給の確保に関する効果		・作物生産効果 水稲の湿害防止効果による増収効果、セルリー、パセリ等の転作作物の導入により、年間1.25億円の増収効果が見込まれる。					21.9億円		
		・営農経費節減効果 乾田化したことにより、大型営農機械の導入が可能となったことから、34時間/haの作業時間の縮減が見込まれる。					1.0億円		
		・維持管理費節減効果 整備前の排水路は、土砂の堆積、雑草の繁茂が著しく、台風到来時等の増水後などに関係者全員で管理を行っていたが、整備後は、堆積土砂が減少し、法面の草刈労力も軽減したため維持管理が容易となった。					0.2億円		
地域独自の効果		地域住民が地区内の農地、農業用施設、環境を保全する活動に参加するようになった。					-		

## 事業により整備された施設の管理状況

採択前は天竜川明善土地改良区が排水路の管理をしていたが、事業完了後は浜松市が普通河川として管理している。

## 事業実施による環境の変化

当地区の水田は昔、冬場に氷が張るほどの湿田であったが、排水路整備により湿田は解消し、その結果、以前はできなかったコンバイン等の大型営農機械の導入が可能となり、営農経費は大きく縮減した。

また、整備前は断面狭小による大雨時の水田湛水被害が多く、その防除管理や法面の草刈等で多くの維持管理時間を費やしていたが、整備後は排水能力が高まったことにより、湛水被害は減少し、維持管理が容易となった。

排水路の整備により地下水位が低下したことから、水田でコメ以外の作物の生産が可能となった他、他地域の大規模コメ生産農家が当地区内の水田を借地して営農する例も見受けられるようになった。

また、中郡地区では排水路整備完了後から「美農里プロジェクト」に取組み、地域住民が農地、農業用施設を保全する活動に参加するようになった。

## 社会経済情勢等の変化

## (1) 地域社会の動向

本地区は市街地と天竜川に挟まれる形で位置し、浜松インターチェンジ、国道1号・国道152号、遠州鉄道が通る等交通基盤が充実した地域となっている。

東名高速道路以北には、田園風景が広がっており、水稻のほかセルリー、パセリ、葉ねぎ等が生産されており、近年ではチンゲン菜等の栽培も盛んになっている。

## (2) 地域経済の動向

浜松市は全国4位540億円の農業生産額を誇り、地形を活かし、野菜、果樹、花き、工芸農産物、畜産等多様な農産物を生産しているが、生産者の高齢化が進んでいることから、農業生産の振興とともに、機械化の推進を図る必要がある。

農産物の流通先は、生産者からは市内農協へ出荷され、農協からはほとんどが県外に流通し、農業所得を確保している。その反面、市内の流通は少なくなっている。

販売促進を図るため、ホテル、百貨店等のほか宅配業者等、多様な流通経路が考えられる商業部門との連携を進める必要がある。企業は、農産物情報やPRが不足していることを指摘しており、企業の求める定時・定量、安定供給への対応が必要である。

## 対 応 方 針 (案)

## (1) 評価結果

\* 事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。

- ・ 地下水位が低下し、転作作物の導入が進んだ。
- ・ 排水改良により、水田の湛水被害が軽減し、農作業の負担軽減に貢献している。ただし、排水路はコンクリートに覆われているため、周辺環境に配慮した構造となっていない。
- ・ 地域による農地、農業用施設、環境の保全活動が活発に行われている。

## (2) 今後の課題等

\* 当地区は宅地が点在し農地集積が困難な状況であり、手作業で行っているところもある。機械化による生産を推進していくためには、ある程度の区画整理は必要である。

\* 乾田化された水田を活用するために、用水路（水田パイプライン）整備やフォアシステムによる地下灌漑の導入検討も必要である。

\* 周辺環境と調和をとりつつ、安全性や管理方法に配慮した水路構造を検討していく必要がある。

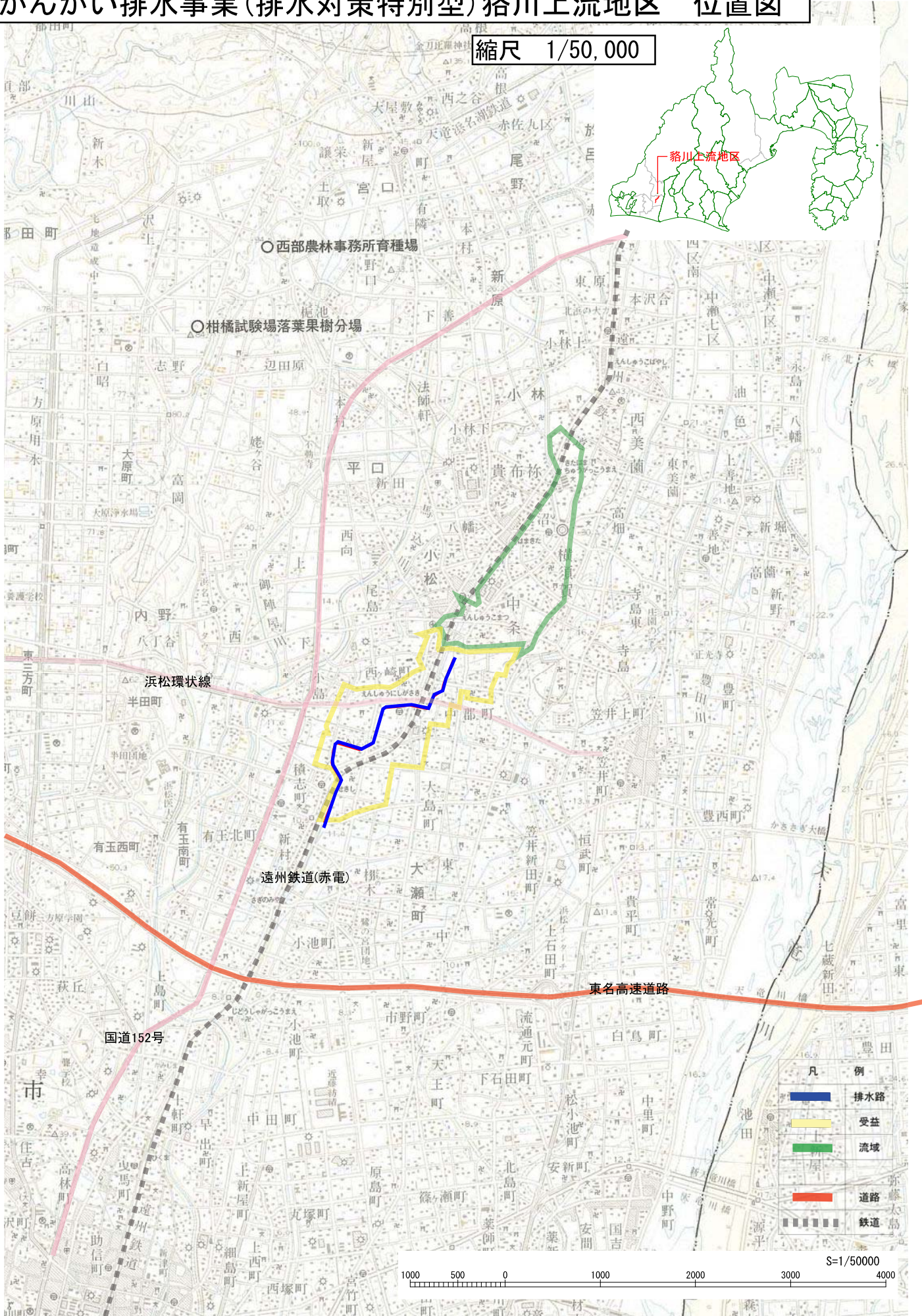
## (3) 同種事業への反映等

\* 本地区では計画的に排水改良工事を実施し、並行して転作作物の導入をすることができた。今後の同種事業の実施にあたっては、営農と連携して事業効果が発揮されるよう努めていく。



# かんがい排水事業(排水対策特別型) 猪川上流地区 位置図

縮尺 1/50,000





# かんがい排水事業(排特)猪川上流地区 事業効果

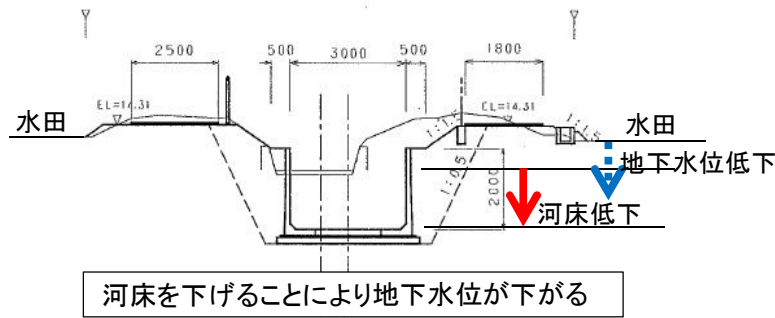
## I 事業完了後の状況



河床を下げた排水路



乾田化し、セルリーが作付された水田



## II 事業完了後の地下水の状況

事業着手前の湿田(平成元年11月)



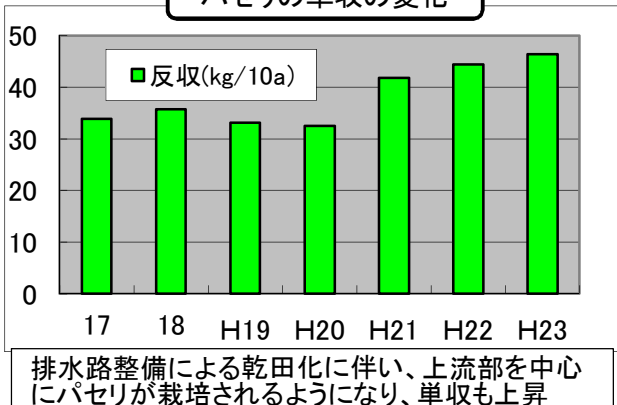
事業完成5年後(平成26年3月)GL-120cm以下



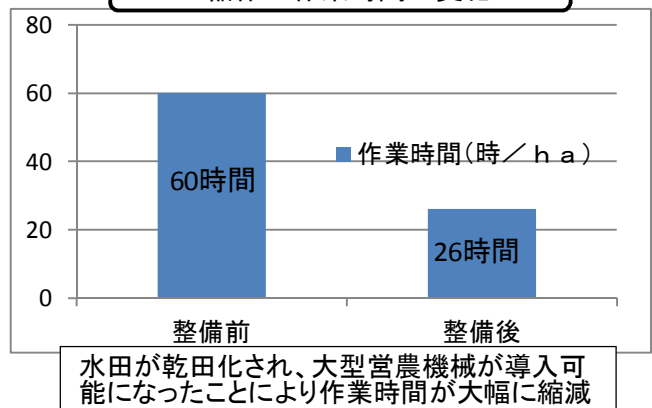
地下水水位が低下し、湿田だった水田が乾田化された

## III 事業完了後の営農の変化

パセリの単収の変化



稲作の作業時間の変化





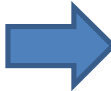
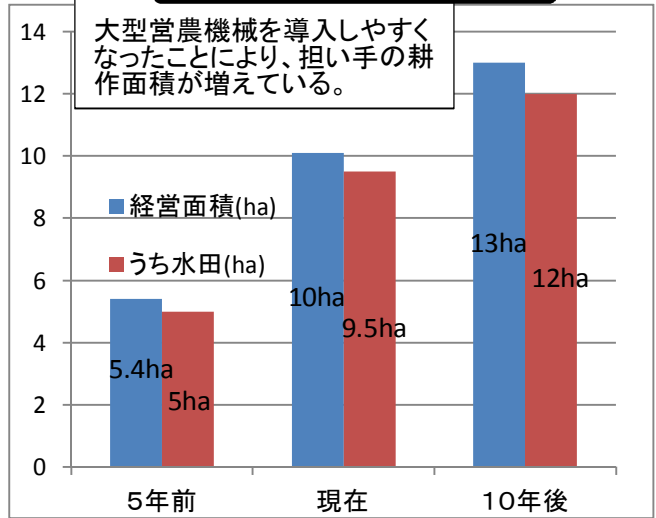


水田の乾田化により、転作が図られ、パセリ、セルリー、チンゲン菜などの作付が行われている。



排水路整備により乾田化された水田は、大型コンバイン等の導入が可能となり、営農労力の縮減に貢献

担い手の経営面積の状況



排水機能の向上により大雨時の湛水被害が軽減されるとともに、法面の草刈も軽減されたため維持管理が容易となった

#### IV 事業実施による地域環境の変化(農地・農業用施設を保全する協働活動)



地域住民による排水路の除草作業

蕎麦の花、菜の花が咲き、住民参  
意識の向上を目指す



中郡地区は平成20年度から「ふじのくに美農里プロジェクト」に参加し、平成25年度「ふじのくに美しく品格のある邑」に認定されました。

ふじのくに食の都づくり Land of Fuji, Food Capital of Japan

静岡県交通基盤部農地局

